

子どものゆたかな学びと学校における働き方改革を求めて

日本教職員組合 中央執行委員長 岡島 真砂樹

おはようございます。日教組第 69 次教育研究全国集会・全体集会に、早朝より全国各地からお集まりいただきました皆様、ありがとうございます。

集会開催にあたり、地元広島県、広島市、そして教育関係者の皆様に、高いところからではございますが、心より御礼申し上げます。

また、公務ご多忙な中、日本労働組合総連合会 神津会長、鷹廣広島県議会議員をはじめ、多数のご来賓、ならびに関係団体の皆様にご臨席を賜りました。集会参加者を代表して心から感謝を申し上げます。

分科会でお世話になります共同研究者・司会者の皆様、手話通訳、看護師の皆様、取材いただくマスコミ関係者の皆様、警備をお願いいたしました警察関係者の皆様、そして、開催地・広島県高等学校教職員組合、広島県教職員組合、および日教組中国地区協議会の皆様には、最終日まで大変なご苦勞をおかけしますが、よろしく願いいたします。

一昨年、当地広島が西日本豪雨に見舞われましたが、昨年は、台風 15 号・19 号・21 号が立て続けに発生し、東海地方から関東、東北地方にかけ、広範囲にわたり甚大な被害をもたらしました。学校現場にも大きな影響を及ぼし、日教組は、全国連帯で「災害救援カンパ」にとりくみました。寄せられた多くの支援金を被災した学校等に届けるとともに、今後も教育復興支援のとりくみをすすめてまいります。

先週 17 日で阪神淡路大震災から 25 年を迎えました。東日本大震災・東電福島原発事故、「熊本地震」の復興への道のりも未だ半ばです。子どもの心のケア等の被災地支援や震災を風化させないとりくみを継続するとともに、防災・減災教育を全国ですすめていく必要があります。

さて、子どもをとりまく状況は深刻さを増しています。18 年度のいじめ、不登校の件数は過去最多（文科省調査）、児童虐待の相談件数も過去最多（厚労省調査）となっています。子どもの相対的貧困率も依然として高く、子どものいのちや人権が脅かされています。国連子どもの権利委員会から再三にわたり勧告されている「過度に競争主義的な教育」の中で、子どもたちは自己肯定感を持たず、居場所も失われています。

また、被差別部落の子ども、障害のある子ども、民族的マイノリティの子ども、性的マイ

ノリティの子ども等、人権が抑圧されている現実があります。

教職員間のハラスメント・暴行事件も起こっており、私たちは改めて自らの人権意識を問いただすとともに、差別の現実深く学び、すべての子どもの学ぶ権利が保障されるインクルーシブな学校づくりをすすめていく必要があります。

この4月より新学習指導要領が小学校から順次本格実施となります。「主体的・対話的で深い学び」が提唱されていますが、学習指導要領はあくまでも大綱的基準であり、学習方法・評価については各学校現場の主体性のもと子どもの実態をふまえて創意工夫しながら行われるべきものです。

17年前になりますが、私が学校現場にいた最後の年、小学校5年生を受け持っていて、算数の面積の研究授業を行いました。折角の機会なので参加した教職員・教育関係者と授業を通して学びのあり方について議論を深めるため、指導法や子どもの理解度等に焦点をあてるのではなく、子どもの気づきや学ぶ楽しさ、学び合いなどに重点をおいた授業をしたいと考えました。特に、単元のまとめの授業として、私には子どもたちが求めてみようと思えるような身近な教材から学びを出発させたいとの思いが強くありました。そうした折に、普段から運動場が長方形ではなく、トラックラインも斜めにとられていていびつな形をしていて、私自身変わった形の運動場だなど思っており、この面積を求めるのがおもしろいのではないかと考え、校長室に保管してあった図面を探し出し教材化しました。概形としては平行四辺形と台形が組み合わされた形で、実際に面積を求めるのは子どもたちにとって難解なものです。正確な面積を求めることを主目的とするのではなく、これまで学習してきたことをもとに自分で考える、友だちと考えを共有する学びの過程を大事にしました。実践してみて反省点も多々あった授業の詳細は省略しますが、最後に子どもたちに本物の図面を見せたところ、正確な数値と自分たちが求めた概数がほぼ近いことに満足する子、複雑な形が補助線によって三角形に細かく分けられ算出されていることに驚いている子、それならばどんな形でも面積は求められることに気づいた子など捉え方はさまざまですが、子どもたちに何らかのインパクトを与えることにはなったと思います。

これは、私のつたない実践の一例ですが、学校現場の教職員は目の前の子どもたちとともに、教育実践や教育活動において日々創意工夫しながらとりくんでいます。

私は今年の挨拶で、私たちがめざすゆたかな学びとは、子どもが学びの主体となるという点では、新学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」と似通っているようですが、最終的に思考力や読解力等の数値的向上を目的としているということであれば、本質的に異なるものだと申し上げました。いま学校現場では、全国学力・学習状況調査の点数・順位を上げることに重点がおかれ、点数学力向上に特化した学びが求められています。主体的な学びとは、お互いを認め合う人間関係、子どもの思いや考え、学ぶ意義や楽しさなどが基盤となるものと考えます。土台がしっかりしていない中で、点数学力の柱をいくら立てたと

しても、それは自ら学ぶ力にはつながらず、いわゆる砂上の楼閣となってしまいます。点数、能力、成果等の枠組みに縛られるのではなく、子どもを中心に据えたゆたかな学びを創造する教育実践・教研活動につなげていかなければなりません。

また、新学習指導要領の実施により、英語の教科化やプログラミング教育など新たな教育内容や授業時数が増えることをふまえ、また先ほど述べましたように子どもが主体となる学びを追究するためにも、教材研究や授業準備の時間、子ども一人ひとりの学習状況の把握や支援等、時間的・精神的なゆとりが一層重要となります。

常態化・深刻化した学校現場の長時間労働は、教職員のいのち・健康に関わる問題であるとともに、子どものゆたかな学びにも直結する待ったなしの課題です。昨年臨時国会で給特法が改正され、上限ガイドラインが法的に位置づけられたことをうけ、大幅な業務削減、定数改善等、教職員が実感できる具体的な改善策を求めるとともに、長時間労働の元凶となっている給特法の廃止・抜本的見直しにむけさらにとりくみを強化していかなければなりません。

教職員の働き方改革の中で、定数改善を含めた教育環境整備は非常に重要です。

私は、第50次の教育研究全国集会にリポーターとして参加し、「保護者・地域のかきねをこえて」と題した、よりよい教育環境を求めるとりくみを報告いたしました。私が勤めていた市内の学校で、大規模校に配置されていた市の事務職員が財政難を理由に引き上げられ、学校現場に負担や混乱が生じたことがきっかけとなったものです。保護者・市民とともに実行委員会を立ち上げ、子ども・教育について話し合い、「ゆとりある、よりよい教育環境」に関して要請項目をまとめ、署名活動にとりくみました。保護者・市民・教職員が一体となってとりくみ、目標を大きく超える署名が集まり、市長に直接申し入れることができました。紆余曲折がありましたが、混乱が表面化していた学校に2学期から臨時の事務職員が配置されました。このとりくみを通して、保護者・市民との連携、社会的対話の重要性を実感することができました。

こうしたことはどこの市町村においても起こりうることであり、財政状況によって教育に支障をきたすことがあってはなりません。教育水準の維持の観点から、国が教職員の定数改善に責任をもってとりくむべきです。しかし残念ながら、2020年度予算案においては、英語の専科指導教員、スクール・サポート・スタッフや部活動指導員等のスタッフ職の増員にとどまり、その数も十分なものとは到底言えません。

とりわけ新学習指導要領が本格実施となる小学校では教員の持ち時間が多く、時数削減につながる定数改善は必要不可欠です。OECDの調査(2019年公表)において、日本の公的支出に占める教育予算の割合は参加国平均の4%を大きく下回る2.9%で最下位となっており、定数改善を含め教育予算を拡充すべきです。

私の教育研究活動との関わりや思いを縷々述べさせていただきましたが、教研活動を通して、子どもとの向き合い方や学びのあり方を考えさせられるとともに、教員としてやりがいをもってとりくめることにもつながったように思います。

私たちの先輩が営々と積み上げてこられた教研活動の歴史と成果を学び、年々増加している若い世代の教職員にも継承していく重要性が高まっています。教職員自らが、その力量や専門性を高めあう活動や実践は、国際的にも高い評価をいただいています。

本集会は、全国各地でとりくまれている教育実践をもとに、平和・人権・環境・共生を基盤としたゆたかな学びについて討議を深め、参加者が互いに学びあう教育研究活動の集大成の場です。改めて子どもを中心に据えた教研活動の意義を確認・共有するとともに、本集会を機に、働き方改革と合わせ、自主的な教研活動の活性化につなげていきましょう。3日間、よろしくお願いいたします。